

◆ 八王子都税事務所長賞 ◆

「少子高齢化とジェンダーと税」

稲城市立稲城第五中学校 3年 齋藤 結

今、日本の少子高齢化の進行により、高齢者の費用を支えることが大変になってきています。私はこのままだと、更に、費用を支えることが難しくなると思います。

高齢者が増えると、税は更に必要になり、給料は少なくなります。給料が少なくなれば、結婚をして子どもに恵まれた時に、子どもを支えていけるか不安になり、結婚しようとする人が少なくなると思います。特に女性です。出産のために、仕事をやめる、または休まなくてはいけなくなり、とても子どもを育てられるか不安になると思います。

このようなことの繰り返しによって、日本の少子高齢化が深刻になると思います。

しかし、この税金のおかげで、日本に暮らす人々が幸せに生きているのも事実です。救急車を無料で呼ぶことができるため、命を助けることができたり、公立学校にかよい、無償で教育をうけることができます。また、医療証があることで、本来の値段の3割を負担するだけで診察してもらうことができるので、気軽に病院に行くことができます。

このように、人々の暮らしを幸せにする税を守るためには、やはり少子高齢化の進行を止める必要があります。そのために、私はこのように考えます。まずは、給料を上げること。給料を上げることで、子どもを育てるうえでの不安が少なくなります。そして、育休を罪悪感なくとることができる仕事の環境をつくること。育休をとったら、周りの人に多少の迷惑がかかります。それを周りの人々が快く受け入れることで、育児をすることができます。もう一つは、男女差別をなくすことです。男性は仕事、女性は家事という考えをなくせば、男女の良いパートナーとして支え合うことができ、両者とも安心することができます。

これらのことから、私はジェンダー平等と少子高齢化と税は全て繋がっていることに気がつきました。日本の危機を乗り越えるために、私に今できることは、ジェンダー平等です。女性だからやる・やらないという思考を直していきたいです。